真木

第　２０３　号

〒260-0852
千葉市中央区青葉町
1274-14
加藤峰子方
千葉県俳句作家協会
事　務　局
TEL 043-225-7115

〒276-0042
八千代市ゆりのき台3-4-1101
前北かおる方
「真木」編集部
TEL 090-4363-3501

目　　次

千葉・県民芸術祭　第64回千葉県俳句大会　……1
千葉県民芸術祭・俳句短冊展　……4
秋季吟行会……5
新春交流会のご案内……6
千葉県俳壇ニュース、結社賞、会員著書紹介……7
ひろば、新入会員一句、基金御礼、受贈誌より……8
事務局日誌……9
第８回千葉県俳句大賞、第37回協会賞の作品募集……9

千葉・県民芸術祭　第64回千葉県俳句大会

大会参加者、役員への感謝を

増成栗人　実行委員長

十月十六日「第64回千葉県俳句大会」を開催の運びとなった。第61回は台風の襲来、第62回、63回はコロナウイルスの蔓延で大会を開けず、今年は四年ぶりの開催である。昨年は大会と同日、同場所での一般の部の受賞者だけの授賞式。以前の二年は文音句会形式の開催となった。久しぶりの皆様との出会い。だが未だコロナウイルスが消滅せず、その影響もあり、一般の部の応募者が減少の二五八名。総応募句数も八八二句と大幅に少なくなった。それに比してジュニアの部は、関係者の多大なるご協力を得て、中学生小学生より一二九五句の応募が寄せられた。

大会当日は一般の部参加者とともに、表彰を受ける生徒たちが付き添いの保護者を伴って多く参加。静かな中にも華やいだ明るさのある大会となり得たと深く感謝している。

今回は改めて外部より講師を招かず、秋尾敏副会長に講演の労をとっていただいた。千葉の俳壇の歴史を資料に添っての講話の中に、いまその場に立つような親しさを覚え、古き人には回顧を、新しき人には新しき知識を、それぞれが受け止めて貰えたとの思いがしきりである。

来賓のご祝辞、表彰も滞りなく終り、午後からは、当日発表の席題での句会。役員による選句、披講、選評、表彰を経て、無事一日の開催を終えた。選者の方々、前日から準備に携わってくださった役員の皆様に、改めて厚く厚く感謝の意を表したい。また明日から新しい年が始まる。

実行委員長　増成栗人

千葉・県民芸術祭 第64回千葉県俳句大会

【一般の部】

雑詠入賞者

千葉県知事賞
噴水のてっぺん水が水を揉む　君津　石井紀美子

千葉県議会議長賞
草を出て草より青き蜥蜴かな　松戸　祐　森司

千葉県教育長賞
青葡萄詩あるかぎり未来あり　稲敷　岡澤　田鶴

千葉県俳句作家協会賞
群青の海さんさんと枇杷熟す　我孫子　小林　菊江

千葉日報社賞
永き日を河馬の欠伸の中にいる　千葉　徳吉洋二郎

千葉市観光協会長賞
暮れてゆく波音ばかり月見草　木更津　川合　憲子

優秀賞
麦の秋塩キャラメルという甘さ　松戸　岩佐　梢
蛍とび闇のやさしくなりにけり　我孫子　相川　健
立話日傘の向きを少し変へ　柏　稲多たえ子
ふるさとの山の心音滴れり　松戸　浪岡　玄
薔薇園に座し湯あたりのやうにゐる　松戸　西野　桂子
一湾と光り合ふ空枇杷熟るる　市川　高久　正
空き缶を蹴れば西日の落ちにけり　柏　斎藤　信一
紙魚はしる奨学金の完済簿　川口　吉永寿美子
サングラス一直線に歩みくる　八千代　前北かおる

秀逸賞
身の透くるまで新緑に深入りす　柏　藤岡　貞夫
川底に火の揺れてゐる広島忌　千葉　岡本　秀子
渡し場に名のみ遺りて葦茂る　八千代　大久保文夫
白南風やひかりの中の岬馬　葛飾　頓所　友枝
篝火の爆ぜて鵜匠が闇に浮く　松戸　良知　悦郎
明日の色ほのかに見せてゆすらうめ　千葉　進藤　道子
龍天に登る勢い鉋屑　野田　大澤　重市
大空へ鉄砲百合のファンファーレ　浦安　岩本　純子

佳作賞
須崎　輝男　坂間　恒子　染谷　卓
東　昇　芦刈　茜　大越　葉子
中村　世都　竹原新一郎　滝口　滋子
猪瀬　達朗　奥村　利夫　増成　栗人
山田たかし　中山　和子

（応募数　四四一組　八八二句）

千葉県知事賞
石井紀美子氏

【ジュニアの部・小学生の部】

千葉県教育長賞
花よりも日のあるところ秋のちょう　市原市立ちはら台桜小三年　加藤　朱希

千葉市教育長賞
たんぽぽやわらっているのないてるの　市原市立ちはら台桜小三年　濱島　英太

千葉県芸術文化団体協議会長賞
フクイサウルスと目が合う夏休み　木更津市立祇園小五年　加藤　彩葉

千葉県俳句作家協会長賞
あおそらがくものふとんをかぶってる　木更津市立祇園小三年　小比類巻蒼志

千葉県俳句大会委員長賞
あせでぬれ赤白ぼうの色がこい　流山市立小山小三年　北沢　紗良

優秀賞
木更津市立真舟小三年　五十嵐依知花
市原市立ちはら台桜小五年　魚住　心紬
木更津市立祇園小三年　成川　朔太郎
市原市立ちはら台桜小三年　杉原　凜香
市原市立ちはら台桜小四年　及川　陽太
市原市立ちはら台桜小四年　太田　百
市原市立ちはら台桜小五年　湯浅　茉莉愛
木更津市立南清小三年　鶴岡　葵子
市原市立ちはら台桜小三年　近藤　弦
市原市立ちはら台桜小四年　沼田　健斗
木更津市立祇園小三年　戸田　雄飛
木更津市立祇園小三年　嶋田　豊基
木更津市立祇園小三年　河野　紗音
木更津市立南清小三年　石崎　駿介
木更津市立南清小三年　木内　康太

（応募数　五八八句）

【ジュニアの部・中学生の部】

千葉県教育長賞
川遊び苔の感触持ち帰る　佐倉市立志津中一年　下山　晄央

千葉市教育長賞
夕焼けが絵の具のようににじんでく　流山市立南流山中一年　戸邉ひなた

千葉県芸術文化団体協議会長賞
朝焼けを背負った雲が一つある　流山市立南流山中一年　加藤　瑛太

千葉県俳句作家協会長賞
キャンバスに向かう横顔汗光る　流山市立南部中三年　板﨑いぶき

千葉県俳句大会委員長賞
風薫るホールに響く四分音符　流山市立南部中二年　小田　部悠

優秀賞
流山市立南流山中一年　松田　梨愛
流山市立南流山中一年　頼木さくら
流山市立南部中三年　佐藤凛々花
流山市立南部中三年　相田　百葉
流山市立南部中一年　東屋　祐希
木更津市立第三中三年　滝口　悠真
流山市立南流山中二年　加藤　早瑛
流山市立南流山中一年　浅井　惇世
流山市立南流山中二年　太田　七海
流山市立南流山中二年　伊藤　風音
流山市立南流山中二年　尾崎　友祐
流山市立南流山中一年　岩田　優羽
流山市立南流山中一年　外山　理那
流山市立南部中一年　古川　芽衣
流山市立南部中三年　笹野　春香

（応募数　七〇七句）

◆大会記

十月十六日、晴天に恵まれて第六十四回千葉県俳句大会が開催された。第六十一回は台風による中止、第六十二回、第六十三回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止されていた。そのため、集会しての大会は四年ぶりということになる。会場の千葉県文化会館小ホールには、五十二名の当日句投句者のほか、多数の小中学生、保護者が詰めかけた。

九時三十分受付が開始され、同時に「天の川」「柿」の席題が発表された。十一時投句締切、石井紀美子理事長の司会で式典がスタートした。増成栗人実行委員長の開会の辞に続いて、千葉県俳句作家協会から能村研三会長が挨拶した。同じく主催者の千葉県から赤池正好環境生活部スポーツ・文化局文化振興課長が挨拶、さらに来賓の千葉市議会議長川村博章氏、千葉市文化連盟会長藤代謙二氏、千葉日報社代表取締役大澤克之助氏からは祝辞をいただいた。

挨拶する能村研三会長

講演する秋尾敏副会長

引き続き表彰式へと移り、一般の部、ジュニアの部の順に表彰が行われた。一般の部には四四一組八八二句の投句があった。読み上げは加藤峰子事務局長が担当し、能村研三会長が登壇して講評を述べた。なお、受賞作は別に掲げた通り。ジュニアの部には小学生五八八句、中学生七〇七句の投句があった。中村世都事務局次長が読み上げ、北川昭久副会長が講評した。

休憩をはさんで、十三時三十分に再開。午後の司会は染谷卓理事が担当、講師の秋尾敏副会長を紹介した。秋尾副会長は、「千葉県俳句作家協会の歴史」という題で、草創期の当協会を振り返った。昭和三十年代に千葉県俳句作家クラブが結成され、それが発展解消し当協会となった経緯を語り起こした。田中午次郎、杉本北柿、柴田白葉女など、俳句作家クラブ時代以来の功労者の足跡がエピソードともに紹介された。

ここで司会は髙橋健文副理事長に交代し、当日句の俳句会を行った。披講を村上喜代子理事、前北かおる理事が担当、採点は松本よし彦、石橋みちこ、滝口滋子、清水佑実子、平岡育也の各理事が担当した。集計結果の発表と表彰に続いて、増成栗人副会長から講評があった。最後に北川昭久副会長から閉会挨拶があり、つつがなくお開きとなった。なお、事前準備から当日の裏方までを、祐森司事務局長、稗田寿明理事が担当し、スムーズな進行を支えた。

千葉市長賞　増成栗人氏

◆【当日句】　席題「柿」「天の川」

千葉市長賞
一軒の家をまるごと柿簾　増成　栗人

千葉市議会議長賞
好きなだけ歩かう奈良の柿日和　飯田　晴

千葉市教育長賞
鉄道の日の久留里線柿日和　前北かおる

千葉市文化連盟会長賞
遠き日をながなが廻し柿を剥く　藤岡　貞夫

千葉テレビ放送賞
大橋を越えて尾灯は銀漢へ　茶谷　静子

優秀賞
銀河濃き村に涙を置いてくる　石井紀美子
たもとほる大和古道や柿日和　大久保文夫
野島崎垂直に立つ天の川　井土絵理子
機嫌よく送りてくれし柿の家　本堂　良衣
潮騒のひびく松原銀河濃し　松本よし彦

秀逸賞
柿落ちてあをすぎる空残りけり　良知　悦郎
天の川これも動脈かもしれぬ　祐　森司
手賀沼のことさら暗く天の川　染谷　卓
弓なりに反る列島や柿すだれ　髙橋　健文
柿日和作務衣のつかふ竹箒　中村　世都

佳作
朽ちてなお兵士の墓標木守柿　徳吉洋二郎
人の声重ねて届く天の川　平岡　育也
日蓮の生誕の地や銀河濃し　岡澤　田鶴
柿を剥く親子三代長廊下　金子日出子
柿を掩ぐ熱き火球をつかむごと　斉藤　信一

千葉県民芸術祭・俳句短冊展『秋を詠む』

千葉県俳句作家協会では、九月二十日から二十六日まで、そごう千葉店地下ギャラリーにおいて、俳句短冊展を行った。協会役員、理事の色紙や短冊、二十四点が、写真とともに展示された。会場は人通りの多い連絡通路にあたり、たくさんの買い物客らが足を留めていた。出品作品は以下の通り。

画廊よりついて来たりし秋思かな　能村　研三
この山の鬼の捨て子に宵の来て　増成　栗人
爽籟は神の併走汐を踏む　秋尾　敏
蔓踏んで富士塚にある秋の声　北川　昭久
単線の暇な枕木小鳥くる　石井紀美子
本立てに本寄りかかる十三夜　髙橋　健文
一灯のランタンを買ひ菊をかふ　加藤　峰子
コントラバスの五臓にひびく秋日和　中村　世都
脱稿のまどろみ真夜の茶立虫　三浦　侃
甲斐大和笹子初狩秋の暮　前北かおる
色鳥や森はいつでも開いてをり　石橋みちこ
秋草を舌にからめる牝牛かな　鎌田　光恵
落花生如でて北総びいきかな　清水佑実子
落葉松の音無く降りて白秋忌　すずき巴里
猛る天いきなり秋を産み落とす　髙橋　宗史
どこまでも青空法師蝉しぐれ　染谷　卓
大き鯉跳ねて秋色深めけり　滝口　滋子
二日目のカレー出てくる台風過　稗田　寿明
どんぐりのノギスで計る胴回り　平岡　育也
小鳥来る備前の里の古社　松本よし彦
天地創造風のふくべによきくびれ　村上喜代子
鰯雲すこし重たきふくらはぎ　祐　森司
歩くなら月のいちばん近くまで　飯田　晴
秋蝶のしもふさに生れ吹かれけり　望月　百代

令和四年度 秋季吟行会

佐原

吟行記

九月十五日（木）、朝からの快晴で「秋暑し」の気候。九月中旬にもかかわらず、暑い夏の延長のような吟行となった。

当日、朝九時十一分着の佐原駅で、ほとんどの参加者が集合。佐原中央公民館での会場設営の方以外は、早速、配られた佐原町並み交流館の「佐原まち歩きマップ」のパンフを手に、吟行に出発した。

佐原は利根川へ流れ込む小野川を中心として、江戸時代に、東北各地や蝦夷地からの米や海産物などの商品が、銚子港に上がり、利根川の水運で江戸に運ばれた。銚子は漁港として、また醤油の町として栄えたが、佐原は商業・金融の街として発達してきた。

利根川へ入る小野川の両岸を中心に発展をした江戸時代の情緒を残す商家や町並みを散策し、八坂神社の祭の山車が、展示されている「山車会館」まで、足を延ばした参加者もあり、句材に事欠かない吟行となった。

佐原の吟行スポットの一つ、日本の忠実な地図を作製した伊能忠敬の生家と伊能忠敬記念館を見て回った。江戸時代の測量の器具、日本全土の地図等を展示した会場は、多くの観覧者を集めていた。（日本全土の地図は、最近、国宝に指定された。）

句会は、十一時三十分から受付開始、出句の締切り（二句）は、十一時三十分。参加者は、事前の申し込みは、四十数名であったが、当日になって、地元はじめ、県内の仲間が駆け付け、七十三名という参加者となり、盛会となった。

十三時開会。北川副会長の司会で始まった。能村研三会長の挨拶では、コロナ禍のこと、佐原の歴史にも触れ、また秋の県俳句大会への参加要請等々にも触れられた。

続いて句稿が配られ、投句数一四六句の中から、一般参加者三句選、役員・理事五句選で選句を実施。小休憩の後、十四時十分から篠塚雅世、前北かおる、加藤峰子の三氏による披講。

休憩後、地元「香取郷友会」の島田七夫氏による「利根川水運による佐原の発展の歴史と人物」についての講演をいただき、一同興味深く、拝聴した。

その後、句会の再開。

能村会長、増成副会長の講評。それぞれの特選句と注目句に対する選評に聞きいった。

十四時五十分、理事長による成績発表。会長より、一位から十五位の作品に賞品が授与された。

十六時、閉会の後、会場の整理整頓をして、十六時十五分終了した。参加者は再会を約し、三々五々、佐原駅へ向かった。時節柄、懇親会は出来なかったが、盛会裏に終了した。

今回の吟行の運営に当たっては、佐原俳句連盟の坂本正夫会長以下関係者のには事前準備等で、大変お世話になった。改めてお礼申し上げる。また、三浦侃理事には、事前準備から、当日の運営全般について担当いただいた。多謝。

（北川昭久記）

小野川沿いの町並み

秋季吟行会作品集

能村研三会長特選
晩学の潔きかな走り星　滝口美智子

増成栗人副会長特選
忠敬の軒の燕も巣立ちけり　須田　良子

秋尾敏副会長特選
伊能図に空白のあり秋あかね　髙橋　健文

北川昭久副会長特選
つくつくし御用測量方の旗　宇根　幸子

石井紀美子理事長特選
小野川の橋に現る秋の滝　小坂清一郎

髙橋健文副理事長特選
好学の先の伊能図富有柿　久保内八千代

加藤峰子事務局長特選
紅芙蓉商家の間取りつつましく　北川　昭久

司会の北川昭久副会長

一位　祐森司氏

入賞者と代表作品（○内は順位）

①舟寄せに歳月があり秋の蝶　祐　森司
②辻々に山車の曳き傷秋気澄む　能村　研三
③舳先から秋分かれ来る小江戸かな　久保内八千代
④蔵ごとに架かる石橋水の秋　野口　久子
⑤伊能てふ地酒のありて涼新た　佐々木和子
⑥鳥渡る宇宙を語る象限儀　岡澤　田鶴
⑦ちちろ鳴く忠敬旧居に昼の闇　谷本　元子
⑧行く秋や番所構への佐原駅　清水佑実子
⑨晩学の潔きかな走り星　滝口美智子
⑩忠敬の軒の燕も巣立ちけり　須田　良子
⑪とんぼうに風のさざなみ水の郷　中村　世都
⑫雁渡る頃は忠敬どのあたり　石井紀美子
⑬白鷺の百の降りたつ刈田あと　菊田　一平
⑭秋高し忠敬の地を一歩づつ　丸山　良子
⑮悠悠でなくても自適吾亦紅　髙岡富美子

参加者一覧（除く入賞者、七十三名）

秋尾　敏　秋葉あい子　梓　孝江　石川　笙児
石山　澄枝　伊藤　和子　岩間　啓子　宇留野ひとみ
大久保文夫　大沢美智子　大野　誠子　大政　建夫
奥村　利夫　加藤　峰子　香取　一郎　金子日出子
神崎　雅人　久礼　隆志　興梠　一子　齊藤　智
坂本　節子　坂本　正夫　澤田　英紀　篠塚　雅世
清水　和子　鈴木　一満　諏訪　好道　染谷　卓
髙橋　宗史　多胡たかし　多々良幸子　戸村　達夫
中村　克功　中村　久一　中山　和子　西村　英雄
原　瞳子　平岡　育也　平本　雅晴　藤野　武彦
布施　和子　保坂　和郷　細根　栞　前北かおる
増成　栗人　三浦　侃　宮内　秀子　毛利　純子
本針　久子　矢萩ゆたか　山崎みち子　横山　郁子
吉崎ひかり　吉田石蕗女

新春交流会のご案内

令和五年の新春交流会の俳句会はコロナウイルス感染防止に鑑み文音俳句会とし、祝賀会は中止とします。

第八回俳句大賞の贈賞式は例年の通り行います。

日　時　令和五年二月十二日（日）
受付午後一時～

会　場　ホテルポートプラザちば　二階ルビー
千葉市中央区千葉港八―五
TEL　〇四三―二四七―七二一一

一、第八回俳句大賞贈賞式　午後一時受付開始

二、新春交流俳句会（文音）　午後二時～
投　句　二句（事前投句）
投句料　一、〇〇〇円

申込み締切り　令和四年十二月三十日（金）

申込み方法　所定の用紙に、俳句二句と指定事項を全て記載の上、投句二句と千円を同封して左記へお申込み下さい。
（現金書留または郵便小為替で送付。投句料の返却はいたしません。）
選句は協会役員・理事にて行い投句者全員に作品集を、入賞者には賞品を送ります。

申込先
〒二八六―〇〇四二
成田市南平台　一一四二―一七
清水　佑実子　方
千葉県俳句作家協会　新春交流会係
電話　〇四七六―二八―五一四六

問合せ先　新春交流会担当　平岡育也
電話　〇四三―二五一―七二八四

千葉県俳壇ニュース

館山市俳句連盟第十八回紙上吟行句会

（令和四年六月三十日）

館山市俳句連盟（庄司風樹会長）は第十八回の初夏の吟行句会を実施した。コロナ禍の状況を勘案し今年も紙上句会とした。参加者八十七人、総句数一七四句。選者は、金丸謙一、伊丹さち子、庄司風樹、東国人、石崎和夫、滝口照影、酒井やすじ、川上惇の各氏（順不同）だった。

①万緑や小鼻うづめて乳房吸ふ　粕谷　鱠水
②白南風や阿波から安房へ忌部塚　湯川　敬之
③草いきれベンチひとつの古戦場　池田　勝
④牡丹の真只中にゐてひとり　櫛引　明江
⑤小さき背に慣れて五月のランドセル　小林　肇
⑥黙深き「桜花」基地跡風光る　伊藤よし江
⑦嬶も子も空を自由に鯉幟　山根　徳一
⑧砂遊び夢中の子等に若葉風　川崎　一美
⑨朝かげに今ほぐれそむ白牡丹　鈴木　滋子
⑩子どもらの風がころがす夏帽子　田中　信子

選者　三代の女系の庭に鯉幟　滝口　照影
選者　風濤に生きて八十路や花とべら　石崎　和夫

（石崎和夫報）

木更津市文化祭第四十六回市民俳句大会

日時　令和四年九月四日（日）一時～
会場　木更津市中央公民館・六階・第七会議室
主催　木更津市文化協会

高点句（三句合点）代表句

①それぞれが自分の色に草の花　川合　憲子
②微笑みは言葉のはじめ秋桜　加藤　法子
③幼子のごとく朝顔数へけり　川俣婦美子
④耳萎えて返す笑顔や秋桜　泉志　眞子
⑤ひとり居の暮しに余白いわし雲　小澤　富子
⑥鶏頭や生家は今もそのままに　元吉さち子
⑦地下街を出て雲のなき終戦日　鈴木　秀朗
⑧ずつしりと重き赤子や天高し　鶴岡久美子

（実行委員長　川合憲子報）

●――結社賞――●

令和三年度最優秀作家賞

火炎賞　大見充子
私雨りんごの花の咲く頃か　充子
白灯賞　小澤什一
朝桜日常のひび割れにけり　什一

（「響焰」七月号より）

第二十回「万象」新人賞

初鏡わが顔どこかよそよそし　三村　紀子

（「万象」八月号より）

野火九〇〇号記念賞

ぽつかりと緑の丘の春の雲　和田　秀巳

（「野火」九月号より）

令和四年「沖」俳句コンクール

入選一位　「道産子」小坂尚子
ものの芽や北方の地に根ざすもの　尚子
入選二位　「陶を継ぐ」朝長美智子
万緑のふところ深く陶の里　美智子
入選三位　「水辺の暮し」広海あぐり
ぽんぽん船入学式の空弾く　あぐり

（「沖」十月号より）

第八回「鴻」俳句賞

第一位　「矢立峠」相川健
無人駅出でて吹雪の中にゐる　健
第二位　「南北に」祐森司
鳥の恋ラジオ放送開始の地　森　司
第三位　「春の音」足立枝里
眼鏡屋のレンズに冬の光満つ　枝　里

（「鴻」十月号より）

第二十回万象俳句賞

万象俳句賞　「水の音」林　陽子
雪形の白鳥飛んで行きさうな　陽　子
次点　「水芭蕉」小板橋泰山
汽車降りてまづ被りたる日雷　泰　山
佳作　「麦刈り」曽根　満
菖蒲葺く村見下しの兜屋根　満
佳作　「旅心」成瀬真紀子
山と鳥映す早苗田朝明くる　真紀子
特別賞　「つれづれ」今越みち子
五合庵へ先へ先へとほととぎす　みち子

（「万象」十月号より）

会員著書紹介

句集『横顔』須田眞里子著

「好日」同人の著者が、入会から十年余りの作品をまとめた第一句集。著者は生まれも育ちも木更津市といい、産土への気持ちやそこに暮らす自分、家族を作品の題材としている。日常を詠う延長に、コロナ禍で使われるようになった用語を詠み込んだ俳句が並んでいるのが新鮮。

ひとむれのどこかに私鰯雲
花野ゆく誰もが少し不仕合せ

横顔といふは正直夜の秋
ふぢはらのなにがし数多飛花落花
（令和四年九月発行・文學の森）

句集『宇宙』藤岡貞夫著

著者は「かまつか」同人会長で柏市俳句連盟会長として活躍の後、現在は顧問を務めている。本書は、平成二十三年に刊行された句集『大地』に続く第二句集。眼前の素材から短い言葉で核心をつかんだ表現が印象深い。「大宇宙の神秘」に魅せられた著者ならではの世界。

夜の新樹づきんづきんと血の流れ
水馬水に濡れずに水に棲む
枯蓮の骨の一徹水を刺す
初雪をのせ考へる木となりぬ
（令和四年十月発行・喜怒哀楽書房）

新入会員一句

朴の花遠き山へと雲流れ　中村　重雄
赤とんぼ追うて終らぬ写生の子　川崎登美子

基金御礼（令和四年六月一七日以降）

齊藤　陽子　増成　栗人　石田きよし
三浦　侃　木村秋草子　谷本　元子
秋尾　敏　西野　桂子　小出美千代
佐藤　映二　吉岡　真琴　志田佐代子
小林　愛子　齋藤　一子　高橋　道子
飯田　協子　中村　世都
（令和四年一〇月一五日現在：三五・五口、七万一千円）

ひろば

県内俳句協会・俳句連盟紹介
「伝統と新しさ」
市川市俳句協会

江戸時代には松尾芭蕉や小林一茶、近年になってからは正岡子規や高浜虚子、水原秋櫻子も大正から昭和にかけて市川を訪れこの地の風景を詠んでいます。市内の弘法寺境内には、富安風生の句碑、小林一茶の句碑、など市内各所に句碑が建立されています。

昭和二十三年に市川市市民俳句大会が市川市第一回文化祭として開催されました。市川の文化活動は俳句が先導したといえます。昭和三十一年には「市川市俳句協会」として組織化されました。

協会は毎年、市川市と共催で市民俳句大会の開催・運営をします。

本年十一月二十三日には第七十四回市民俳句大会を行います。選者は、市川に縁の深い十六結社の主宰・同人など三十名。大会は著名な俳人による記念講演に続き、俳句大会。選者の選と、当日参加者の選とで総合的な成績を決める方式です。最後に「当日句」による「当日句会」が行われ、大いに盛り上がりをみせます。

その他、市内小学校への「俳句出前教室」講師派遣、短歌協会・川柳協会との共同で毎年「新春展」の開催。市川市芸文協に加盟し、『文化集会』や『天空の文化祭』などの活動をしています。

（市川市俳句協会事務局長　町山公孝）

受贈誌より

あびこ（三六二号）
暮れ初めて汐の匂ひや月見草　染谷　卓

いには（十月号）
火の山の裾にみづうみ風青し　村上喜代子

沖（十月号）
辻に来ての字に廻す山車の修羅　能村　研三

音信（十月号）
落穂拾ひ終えてミレーの夕心　白鳥紅星子

かずさホトトギス（六三八号）
お供して雪解の音を聞きし日も　三枝かずを

響焔（十月号）
栗色の髪やわらかく泉汲む　米田　規子

草の実（九月号）
睡蓮の水を離るる間合ひかな　逸見　真三

鴻（十月号）
ひよんの笛吹きて齢のことをふと　増成　栗人

好日（十月号）
わが胸のバス停ミカドアゲハ過ぐ　髙橋　健文

鴫（十月号）
戻り梅雨博物館のあかり窓　加藤　峰子

軸（十月号）
永遠に流れる星か君主国　秋尾　敏

獺祭（十月号）
夕月夜淡く影ひき女坂　本田　攝子

野火（十月号）
秋口の口さびしさや昼すぎて　菅野　孝夫

初蝶（十月号）
干竿へ伸ばす二の腕涼新た　中山　和子

万象（十月号）
水中花置く女子大の門衛所　江見　悦子

百鳥（十月号）
松虫草化石を偲び師を思ふ　大串　章

ろんど（十月号）
はるばると来て露草の心持ち　すずき巴里

千葉県俳句作家協会　運営基金のお願い

千葉県俳句作家協会のさらなる発展のため、運営基金を募集致します。皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

◇一口　二千円

◇送付先　千葉県俳句作家協会基金口

郵便振替　〇〇一四〇－〇－七九二〇八三

基金にご協力頂いた方のご芳名を会報「真木」に記し領収に替えさせて頂きます。

事務局日誌

◆第三回理事会

日時　令和４年８月27日（土）

会場　ホテルプラザ菜の花　４階　槙Ⅰ

議事　１　令和４年度第64回千葉県俳句大会について

２　令和４年度香取市佐原市内秋季吟行会について

３　令和４年度新春交流会について

４　第37回協会賞の募集について

５　第８回千葉県俳句大賞募集について

６　会報「真木」二〇三号について

７　その他　事務局報告

会員異動

新会員

中村　重雄（千葉市）、川崎　登美子（船橋市）

謹　訃

座古　稔子

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

今号が編集長として四号目の「真木」となります。最初の一年は、遅刊等のトラブルでご心配をお掛けしました。安定した発行を心がけますので、引き続きご協力のほどお願い申し上げます。（前北かおる）

第８回千葉県俳句大賞

【応募条件】　千葉県内に在住し、令和３年12月１日～令和４年11月30日までに刊行した句集より審査します。当協会に加盟されているか否かは問いません。現在当協会の役員をされている方は応募できません。

【応募方法】　自薦、他薦は問いません。下記の宛先まで句集と句集からの自選20句をお送りください。20句はＡ４用紙１枚（冒頭に句集名・作者名を記入してください）

【応募締切】　**令和４年11月30日（水）**

【顕　　彰】　大賞　表彰盾、副賞５万円

準賞　表彰盾、副賞３万円・奨励賞　表彰盾、副賞１万円

【応 募 先】　〒265-0077　千葉県千葉市若葉区御成台3-26-6　石橋みちこ方

千葉県俳句作家協会顕彰部「俳句大賞」係

※封筒の表に「俳句大賞応募」と朱書きしてください。

【選考委員】　能村研三　増成栗人　秋尾　敏　北川昭久　石井紀美子　村上喜代子

【表　　彰】　令和５年２月12日（日）　新春交流俳句会の席上にて表彰致します。

第３７回協会賞の作品募集

【募集作品】　20句　新作未発表の作品で「題名」を付す

【投 句 料】　3,000円　応募作品に郵便小為替同封のこと

【締　　切】　**令和４年12月15日（木）必着**

【選　　者】　秋尾　敏　石井紀美子　加藤　峰子　北川　昭久　染谷　卓

髙橋　健文　能村　研三　増成　栗人　村上喜代子

【　賞　】　表彰状　副賞（３万円）

【発　　表】　会報「真木」誌上に発表

令和５年５月21日（日）　千葉県俳句作家協会総会の席上で表彰

【投 句 先】　〒273-0046　千葉県船橋市上山町3-608-22　鎌田光恵方

「千葉県俳句作家協会事務局」宛

【投句用紙】　◇Ｂ４版　400字詰め原稿用紙１枚を使用

◇右欄外に「題名」

◇末尾欄外に「郵便番号・住所・姓号・電話番号・所属・俳歴・年齢」を楷書で明記。

◇右上欄外に「新仮名遣い使用」あるいは「旧仮名遣い使用」と明記

※千葉県俳句作家協会会員対象となります。ご入会手続き完了後ご応募願います。

月刊俳誌

鳴（しぎ）

鳴俳句会

代表　加藤　峰子
創刊　田中午次郎
再刊　伊藤　白潮

誌代１年　12,000円
（見本誌　500円）

〒260-0852
千葉市中央区青葉町 1274-14
加藤方
電話･FAX 043-225-7115
http://shigi-haikukai.com/

心を満たす俳句

鴻 koh

「鴻」俳句会

主宰　増成栗人
師系　角川源義　吉田鴻司

発行所
〒271-0087
松戸市三矢小台二-四-一六 谷口方
電　話 〇四七-三六三-四五〇八
ＦＡＸ 〇四七-三六六-五一一〇

◆誌代／年間 一二、〇〇〇円

歩いて俳句

雲

雲発行所

創刊　鳥居三朗
師系　今井杏太郎
主宰　飯田　晴

〒276-0023
八千代市勝田台一-七-一
D-一〇〇五
電話＆ＦＡＸ 〇四七・四八七・七一二七

創刊５０周年

軸

軸俳句会

主宰　秋尾　敏

〒278-0005
野田市宮崎９５-４
電話 ０４-７１２２-３９２１
Fax ０５０-５５５２-９１１０

８４円切手３枚で見本誌贈呈

月刊俳誌

沖（おき）

俳句ルネッサンス

主　宰　能村　研三

新会員募集中

誌　代　1年／15,600円
半年／17,800円
見本誌　1冊　800円

沖発行所
〒272-0021 市川市八幡6-16-19
TEL 047-334-4975
FAX 047-333-3051
振 替 00170-6-161552

自然と人間の一体化を目指す

月刊

好日

名誉主宰　長峰竹芳
主　宰　髙橋健文

誌代　一年　一二〇〇〇円（送料共）

〒270-0007
千葉県松戸市中金杉二ノ七八
好日俳句会
電話　〇四七-七一三-六四九五
振替　〇〇二五〇-一-一四一二七八

現代俳句同人誌

遊牧

代表　塩野谷　仁

同人費　一年　二〇〇〇〇円
誌友費　一年　六〇〇〇円

〒273-0033
船橋市本郷町 五〇七-一-二-三〇七
遊牧俳句会
電　話 〇四七-三三六-一〇八一
ＦＡＸ 〇四七-三一五-七七三八

一度きりの今を楽しむ

いには INIWA

主宰　村上喜代子

新会員歓迎・添削指導します。

誌代１年 12,000円（月刊）
半年　6,000円 見本誌 500円

－いには俳句会－

〒276-0036
千葉県八千代市高津390-211
電話　047-458-1919
Fax　047-458-1895
振替　00280-9-131469

ＨＰ検索：いには俳句会

俳誌　あびこ

主宰　染谷　卓

誌代（隔月刊）　一年　四〇〇〇円

〒270-1138
我孫子市下ヶ戸二八五
TEL 〇四-七一八二-四四四一
郵振替 〇〇一〇〇-四-一八九〇七四

あびこ俳句同好会